

## 二日市遺跡

要川原野

### 【遺跡の位置】

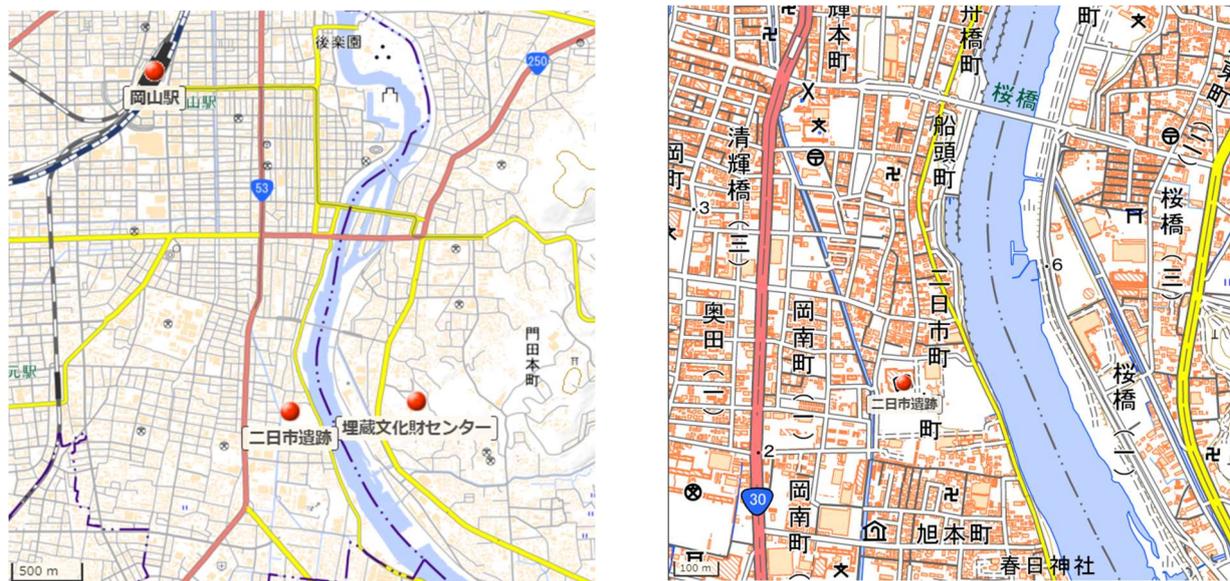


図1 二日市遺跡の位置（地理院地図をもとに発表者作成）

### 【概要】

岡山市北区二日市にある二日市遺跡は、岡山市立中央図書館建設に伴い、昭和57年6月～8月上旬に発掘調査が行われました。この地点は、近世は岡山城下町の南限付近、古代には鹿田荘の東縁に該当します。発掘調査では、下層では密度は粗いものの、弥生時代～古墳時代、古代末～中世前半に至る遺構・遺物が検出されました。一方、上層では、寛永14年（1637）～寛永17年（1640）にかけてのごく短期間に操業した岡山銭座（寛永通宝鑄銭場）とみられる遺構・遺物群が検出されました。

大型方形土坑（灰穴）、炉跡、井戸、長屋状の掘立柱建物など、特徴的な遺構群が検出され、鑄銭の各工程に必要な設備が確認されました。出土遺物では、るつぼや砥石、枝付き銭など、鑄造道具や銭の未成品などが確認されました。また、遺構の埋土には、銭座に特徴的な遺物に加え、陶磁器や建材、下駄なども多数含まれており、銭座操業停止に伴い、一気に廃棄、整地したとみられます。

その他、大量の陶磁器が出土しました。これらは、銭座操業・廃絶に関連してまとめて調達・廃棄されたとみられ、近世陶磁器の編年・流通に関する重要な資料群として知られています。

〈参考文献〉

乗岡 2018 「寛永17年廃絶の岡山銭座の陶磁器」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第10号、pp.95-124

乗岡 2019 「寛永17年廃絶の岡山銭座の遺構群」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第11号、pp.80-109

乗岡 2020 「岡山銭座の鑄銭関連遺物」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第12号、pp.65-94

神谷・乗岡 2021 「二日市遺跡の下層遺物と近世銭座のその他の遺物」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第13号、pp.102-120

### 【交通】

路面電車：「清輝橋」から約800m（徒歩約12分） / バス：「岡南営業所」から約400m（徒歩約6分）